

モザンビーク共和国月報（2021年11月）

主な出来事

【内政】

- モザンビーク内政（閣僚交代）
- モザンビーク内政（モザンビークにおける医師の数が増加）
- カーポデルガード州情勢（電力復旧）

【外交】

- モザンビーク外交（COP26：モザンビークの気候変動対策に係るコミットメント）
- カーポデルガード州情勢（EUモザンビーク訓練ミッションの発足）
- カーポデルガード州情勢（EUによる支援策の採択）

【経済】

- マクロ経済（2021年第3四半期のGDP成長率）
- マクロ経済（オックスフォード・エコノミクス・アフリカによるマクロ分析）
- マクロ経済（中央銀行による最新の金融政策）
- 非開示債務問題（シャン前経済・財務大臣の身柄引渡し）
- 天然ガス・LNGプロジェクト（Coral Sul FLNG命名・出航式開催）
- インフラ関連（モザンビーク・マラウィを跨ぐ国際インフラプロジェクト）
- その他

【内政】

モザンビーク内政（閣僚交代）

11日、ニュシ大統領は、9日に罷免したアマデー・ミキダーデ内務大臣およびアドリアーノ・アフォンソ・マレイアーネ大統領府長官、および10日に罷免したジャイメ・ベッサ・ネット国防大臣の後任として、アルセーニア・フェリシダーデ・フェリックス・マシング氏（元国家移民サービス長）を内務大臣に、コンスタンティーノ・アルベルト・バセーラ氏を大統領府長官に、クリストーヴァン・アルトゥール・シューメ氏（前陸軍支部長）を国防大臣に任命した。

モザンビーク内政（モザンビークにおける医師の数が増加）

当国における医師の数は、2018年には2,473名であったが、今年9月には2,842名に増加し、最近4年間で15パーセント上昇した。最近共有された指標によると、全ての医者のうち、962名が様々な分野の専門医であり、1,880名が総合診療医である。

国家保健システムの医療従事者の数は、2018年時点では、57,502名であったが、今年9月には61,648名となり、9パーセント上昇した。

（18日付ノティシアス紙）

カーボデルガード州情勢（電力復旧）

モザンビーク電力公社（EDM）は、11月22日、カーボデルガード州北部の全ての郡の電力復旧に成功した旨発表した。

（24日付オパイス紙）

【外交】

モザンビーク外交（COP26：モザンビークの気候変動対策に係るコミットメント）

2日から4日にかけて、当地各紙は、第26回気候変動枠組み条約締約国会議（COP26）において表明されたモザンビークの気候変動対策を巡る新たなコミットメントやエネルギー転換における天然ガスの位置付けについて報じているところ、取りまとめ概要以下のとおり。なお、モザンビーク代表団は、カルロス・アゴスティーニョ・ロザリオ首相が率い、マヌエル・ゴンサルベヴェス外務協力副大臣やフェルナンド・ソウザ土地・環境副大臣が団員として名を連ねている。

【ポイント】

- モザンビークは、「森林と土地の利用に関する宣言」を支持し、2030年までに森林の消失と劣化を防ぎ、回復させるための行動をとる。
- モザンビークは、新たなエネルギー政策として、2030年までに再生可能エネルギーによる電力供給を62%に引き上げる。但し、エネルギー転換は段階的に進めていく。
- よりクリーンなエネルギーへの移行期において、天然ガスの活用を提案する。
- モザンビークは新しい国別排出削減目標（NDC）を発表した。改定NDCを実現するために、モザンビークはより多くの資金援助と技術移転を必要としている。
- 天然ガスと石炭プロジェクトが継続されるようモザンビーク代表団はグラスゴーで必要な交渉を行う。

（当地各紙）

カーボデルガード州情勢（EUモザンビーク訓練ミッションの発足）

3日、ネット国防大臣（当時）は、同日開催されたEUモザンビーク訓練ミッション（EUTM Mozambique）発足式において、EUTMは歴史的なミッションである（estamos a fazer historia）旨述べた。

EUにとって、本EUTMは、マリ、中央アフリカ共和国およびソマリアに続き4回目の軍事訓練ミッションである。また、ポルトガルを中心とした欧州10か国の軍人140名によって、2年間にわたり、約1,100名のモザンビーク人将校、軍曹および兵士（6つのコマンド部隊中隊および5つの海兵隊中隊）が訓練される。

EUTMによって訓練される最初の2つの中隊はマニカ州都シモイオにて訓練を受けるコマンド部隊およびマプトにて訓練を受ける海兵隊であり、当該中隊は、今から4か月後に

訓練が完了する（estarao prontas）予定である。

（3日付L U S A）

カーボデルガード州情勢（E Uによる支援策の採択）

19日、EU理事会は、EUモザンビーク訓練ミッション（EUTM Mozambique）によって訓練されるモザンビーク軍部隊を支援するため、モザンビークに対する4,000万ユーロの支援策を採択した。

同理事会の声明によれば、本支援は、欧州平和ファシリティの下で提供され、また、本年7月に承認された緊急的な必要性を有する物資に対する400万ユーロの資金援助を補完するものである。また、同支援策を通じて、EUTMによって訓練されるモザンビーク軍の能力強化のための適切な非殺傷装備が提供される。

（19日付L U S A）

【経済】

主要経済指標

- ・名目GDP：140億米ドル(2020年世銀)
- ・GDP（1人あたり）：448.6米ドル(2020年世銀)
- ・GDP成長率：-1.28%（2020年世銀）
- ・インフレ率（消費者物価指数）：3.14%（2020年世銀）
- ・輸出（通関ベース）：35.88億米ドル（2020年中銀）

主な輸出品は、アルミ製品、石炭、電力、重砂、天然ガス、たばこ

- ・輸入（通関ベース）：58.82億米ドル（2020年中銀）

主な輸入品は、機械類、建設資材、燃料、医薬品、自動車、アルミ原料

マクロ経済（2021年第3四半期のGDP成長率）

17日、国家統計局（INE）が発表した最新の国民経済報告書によると、2021年第3四半期の国内総生産（GDP）は前年同期比で3.36%増を記録した。21年1月から9月期の成長率は1.78%となり、新型コロナウイルスによる経済停滞から回復の兆しを強めている。

（17日付INE報告書及び22日付クラブオブモザンビーク）

マクロ経済（オックスフォード・エコノミクス・アフリカによるマクロ分析）

オックスフォード・エコノミクス・アフリカの経済アナリストは、モザンビークの21年第3四半期のGDP成長率が前年同期比3.3%を記録したことに対し、21年年初の経済停滞の後、同年後半にかけて経済成長は勢いを増し、同第3四半期は新型コロナウイルス発生以降最高となる伸び率を記録したと指摘する。

モアティーゼ炭鉱の石炭生産量の増加や感染防止対策の緩和が経済に勢いを与えたと述べ、22年には第一次製品の輸出が加速し、伊Eni社が主導するロブマ盆地での天然ガス開発の開始に支えられ、GDP成長率は2.5%以上を記録すると分析する。

(24日付クラブオブモザンビーク)

マクロ経済 (中央銀行による最新の金融政策)

22日、金融政策委員会(CPMO)は、マプトで会合を開き、政策金利(MIMO)を13.25%で据え置くことを決定した。食糧及び燃料価格の高騰、国際的なサプライチェーンの混乱、新型コロナウイルスの影響などを不安視する声が高まっているが、年間のインフレ率は一桁代で推移するとの分析により、同決定が下された。

(22日付クラブオブモザンビーク及び18日付中央銀行プレスリリース)

非開示債務問題 (シャン前経済・財務大臣の身柄引渡し)

10日、ヨハネスブルクのハウテン高等裁判所は、シャン氏をモザンビークに引渡すというラモラ・南アフリカ司法大臣の決定を却下し、米国への送還を命じる判決を下した。本年8月、ラモラ司法大臣は、シャン氏のモザンビークへの引渡しを決定したが、この決定に対し、予算監視フォーラム(FMO)をはじめとするモザンビークの市民社会団体が異議を唱えていた。

ハウテン高等裁判所のビクター判事は、ラモラ司法大臣が行った決定は南アフリカの1996年憲法と矛盾しており、無効であると述べ、シャン氏は米国での裁判を受けるために同国に引渡されるべきと結論づけた。

(10日付当国各紙)

天然ガス・LNGプロジェクト (Coral Sul FLNG 命名・出航式開催)

Eni社は、15日、エリア4鉱区のパートナー(エクソンモービル社、中国CNPIC、Galp社、KOGAS、ENH)を代表して、アフリカ大陸で展開される最初の浮体式液化天然ガス生産施設(FLNG)の命名・出航式を開催した。サムスン重工業巨済造船所で執り行われたこの式典には、モザンビークのニュシ大統領と韓国の文大統領も出席した。

Coral Sulと命名されたFLNGは、16日に韓国を出航し、60日かけてモザンビークに到着する予定である。

(15日付当国各紙)

インフラ関連 (モザンビーク・マラウイを跨ぐ国際インフラプロジェクト)

国際送電線敷設プロジェクト

23日、ニュシ・モザンビーク大統領とチャクウェラ・マラウイ大統領は、両国間で電力のやりとりをするための「モザンビーク・マラウイ域内相互接続プロジェクト」を正式に立

ち上げた。

このプロジェクトの第一段階では、テテ州のマタンゴ変電所からマラウイのバラカ地区にあるフォンベヤ変電所までの全長218キロメートルの送電線を敷設する。世銀をはじめとする金融機関から計1億2,700万米ドルの融資を受け、2022年11月に完成する予定である。

(23日付ルーザおよび同日付A I M)

セナ鉄道支線リハビリプロジェクト

モザンビークのベイラ港と隣国マラウイを結ぶ鉄道は、1986年9月に反政府勢力レナモによって破壊されて以来、麻痺状態にあったが、来年前半に再開される見込みである。現在、ザンベジ川に架かるドナアナ橋からマラウイ国境のヴィラノヴァダフロンテイラまでを結ぶセナ鉄道の支線の大規模な改修工事が進められている。

(25日付A I Mおよび同日付クラブオブモザンビーク紙)

キンバリープロセス加盟国入り

モザンビークは念願のキンバリープロセスへの加盟を果たした。キンバリープロセス認証制度は、紛争ダイヤモンドの流通を阻止するための産地証明制度で、モザンビークはこれまで同制度のメンバー国ではなかったため、ダイヤモンドの国際取引に参入することができなかったが、今後はその輸出が可能となる。今般、採鉱プロセスなどを審査・認証する国家機関の設置などの要件を満たしたため、加盟が認められた。

(12日付オパイス紙、15日付クラブオブモザンビーク紙および11日付ルーザ)

IMF・モザンビーク政府間の新規融資プログラムに関する協議

アレクシス・メイヤー・IMFモザンビーク代表は、24日、サブサハラ・アフリカ地域経済見通しに関するウェブ会議終盤のセッションにて、IMFとモザンビーク政府の間で長期金融プログラム(拡大クレジット・ファシリティ(ECF)融資)に関する協議が行われていることを明らかにした。アレクシス代表は、モザンビーク政府から新たな融資プログラムに対する関心が示されたことを受け、現在協議を進めており、今後融資が実現するかはモザンビーク政府との交渉次第であると述べた。また、国別サーベイランス(4条協議)に基づく協議は最終段階に入っており、4条協議報告書(スタッフレポート)は、2022年第1四半期には発表される計画であると説明した。

(24日付クラブオブモザンビーク紙)

マネーロンダリング規制に違反した金融機関への制裁

中銀は、マネーロンダリングおよびテロ資金調達防止に関する法規に違反したとして、2020年2月から2021年6月にかけて、11の商業銀行と9人の個人に対して罰金を

科した。

中銀が11月29日に発表した声明によると、アフリカン・バンキング・コーポレーション（ボツワナに本社を置く BancABC）には、2016年から2017年にかけて行われた不正行為により、6,440万メティカル（100万米ドル強）の罰金が科せられた。また、モザンビーク第2位の銀行であるBCI（Commercial and Investment Bank）に対しても、顧客の身元確認や疑わしい取引の報告を怠ったとして、5,200万メティカルの罰金が科せられた。

（29日付オパイス紙、30日付AIMおよび同日付DW）

（了）